

2010年11月30日

第28回日本医学会総会
会 頭 矢崎 義雄 殿
展示委員長 大江 和彦 殿

「戦争と医の倫理」の検証を進める会
代表世話人 石川 徹
代表世話人 塩安佳樹
代表世話人 西山勝夫
事務局 長 住江憲勇

学術展示「出展申込」却下に対する抗議と私たちの見解

貴会は、当会の8月23日付「第28回日本医学会総会」学術展示「出展申込」に対し、「主旨が異なるので希望に沿えない」として却下しました。このことに関し、当会は貴会が出展を断られた理由について納得いたしかねるため、貴会の大江和彦展示委員会委員長との懇談を要望しましたが、同様の主旨により断られました。

当会の展示内容は、「出展申込書」に記載したとおりで、これからの「医療倫理」や「医学教育」の発展、向上にも資するものです。ましてや、貴会が示された出展募集分野でいえば、「医療情報分野」、あるいは「その他、医療従事者向け情報分野」として十分に展示可能なものではないでしょうか。

大江和彦展示委員長の展示に関する「ご挨拶」でも、「様々な領域の皆様の参加が不可欠で、様々な参加の形を準備いたしました」と述べられています。

さらに、当会の出展内容は、貴会の「医学教育史展示」で、「IV戦中戦後の医学教育—社会的要請で増減する医育 IV—I戦中に医療を担った人々」の項目にも深く関わるものです。また、大阪で開催の第27回日本医学会総会でも、当会の前身である第27回日本医学会総会出展「戦争と医学」展実行委員会の「出展申込」を認めています。

にもかかわらず、懇談の機会さえ断られる貴会の態度は誠に遺憾であり、抗議いたします。

現代の先端医学・生命科学が人間の尊厳に抵触する危険性を孕んでいるだけに、かつての戦争で日本の医師・医学者が「731部隊」などで犯した「医学犯罪」に真摯に向き合い、その教訓を今後の医学教育や医の倫理に活かすことは極めて大切なことではないでしょうか。戦時下の日本医学会総会において、戦争政策に加担してきた歴史を振り返るなら、本来ならば、日本医学会総会が自ら自己検証を行うべき課題ではないでしょうか。

以上が当会の見解であり、私たちは、日本医学会総会がこの問題を先送りすることなく、来年開催の第28回日本医学会総会の企画として具体化されることをあらためて強く要望するものです。

以上